

個別の助成金給付はヘルスケア・社会的ケアに対して正の効果がある



障害のある人たちへの個別の助成金給付には全体的な満足度に対する正の効果があることが一貫して示されている。

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューでは、ヘルスケアや社会的ケアの成果の範囲に対する個別の助成金給付による効果を検討している。また、障害のある人たちの経験、彼らの有償・無償のサポート、助成団体と支援団体の両方の観点による導入の成功と課題に関するエビデンスを提示している。

個別の助成金給付は、障害のある人たちに個人の生活費を提供し、自立を促進し生活の質(QOL)を高める。このアプローチは全体的な満足度に対して一貫して正の効果があり、生活の質と安心感を改善するといういくつかのエビデンスもある。

このレビューでは何を検討したのか??

個別の助成金給付は、障害のある人たちのための個人ベースで助成金をサポートする包括的な用語である。これは、自己主導、エンパワメント、自立、自己決定の促進を目的としている。このレビューでは、個別の助成金給付による効果と経験を検討している。

このレビューにはどのような研究が含まれているか？

このレビューは障害のある人たちへの個別の助成金給付に関する73件の研究のレビューである。これには、4件の量的研究、66件の質的研究、3件のミックスドメソッドによる研究が含まれている。データは、1992年から2016年までの24年の期間で、14,000人に関するものである。これらの研究はヨーロッパ、米国、カナダ、オーストラリアで実施された。

このレビューの主な結果は何か？

全体的にみると、個別の助成金給付は生活の質、対象者の満足度と安心感に対して正の効果があるということがエビデンスから示唆されている。また、悪影響が少ない可能性もある。

身体的機能、満たされていないニーズ、費用対効果への影響に関するエビデンスはあまりない。レビューでは、Adult Social Care Outcomes Toolkit(ASCOT)、健康に関する自己認識コミュニティ参加との間に差はみられないということが明らかになった。

受給者は特に以下の点に価値を認めている。柔軟性、自己イメージと自信の改善、金銭の有用性の向上、コミュニティとの一体感、誰にサポートしてもらうかを選ぶ自由、「社会的機会」、ニーズ主導のサポートである。



このレビューはどれくらい最新のものか？

このレビューの著者らは2016年末までに発行された研究について調査した。このキャンベル系統的レビューは2019年1月に発行された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Howard White (Campbell Collaboration)によって作成された。Campbell systematic review (DOI: 10.4073/csr.2019.3) 'Individualised funding interventions to improve health and social care outcomes for people with a disability: a mixed-methods systematic review', by Padraic Fleming, Sinead McGilloway, Marian HERNON, Mairead Furlong, Siobhain O'Doherty, Fiona Keogh and Tim Staintonに基づいている。要約は、Chui Hsia Yong (Campbell Collaboration)が編集を担当した。

この要約に対してはAmerican Institutes for Research for the productionより財政支援を受けた。ここに謝意を表す。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH®

旧来的で集団志向、分離的なサポートによる過去のネガティブな経験から、多くの人たちが個別の助成金給付を選択した。

実施の成功は、有償・無償両方の個人とのサポートネットワークにおける強力で信頼し合える、協働的な関係によって支えられている。これによって、情報の入手、スタッフの募集、ネットワーク構築、事務・管理タスクによるサポートなどのプロセスを促進する。このような関係は、家族や友人への財政的認識、支払いの適切な割合、機関から個人への権力のシフト、あるいはパターナリズム的行動の回避によって強化される。

助成へのアクセスと受給の長期の遅延も課題として含まれている。これは過度に複雑で官僚的なプロセスによって生じる。一般的な明確性の欠如(例:許容される予算の使い方)、受給のための一貫性のないアプローチ、満たされない情報ニーズが存在する可能性がある。隠れたコストや管理費は、かなりの懸念とストレスの原因となりうる。

スタッフは、地元の支援団体の関与や障害のある人たちのための支援ネットワークの利用可能性、実施を支援する要素としての時機に応じた関連トレーニングに言及する。また、個別化された方法における支援ニーズで生じる後方支援的な課題(例:個人的な期待への対応や社会人口学的差異)を強調する。

このレビューの知見の意味するところは何か？

このレビューは、25年間の利用可能なエビデンスについて、最新かつ綿密な総合的知見を提供している。個別の助成金給付モデルは有益であるということがエビデンスによって示されている。

この知見は、実務家や助成金提供者が懐疑論から離れて、機会と熱意に向けて考慮する必要があるということを示唆している。政策立案者は、関連する制度と一時的なコストを認識する必要がある。教育とトレーニングへの投資は個別の助成金給付と実装を成功させるためのメカニズムをより深く理解するのに役立つ。

今後の研究では、長期間における複数の時点でのフォローアップを組み込む必要がある。複雑な「現実世界」の介入による効果と影響に関する全体的な評価を提供するため、このレビューの著者らは、ヘルスケアと社会的ケア領域におけるさらなる系統的レビューでのミックスドメソッドによるアプローチを奨励する。